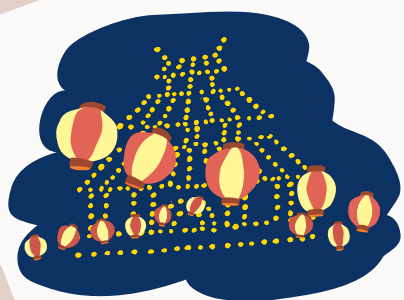


70年を
想い
躍動する未来へ

筑後市制 施行 70周年 記念誌



魅力がいっぱい!

祝! 70周年/

なんかいいな。筑後市

1954(昭和29)年に誕生した筑後市は、
70周年を迎えました。永年の変遷とともに
発展を続ける筑後市の魅力を発信します!



魅力その1

文化財

筑後市は歴史と文化が息づくまちで、名所として名高い寺社や史跡が数多く点在し、特色ある伝統行事が受け継がれています。

1 水田天満宮



菅原道真公を御祭神とし、1226(嘉禄2)年に建立され、太宰府天満宮と並んで「九州二大天満宮」と称されていました。現在の本殿は、1672(寛文12)年に再建されたもので、美しい景観の建物です。

せんとうみょう 千燈明

8月25日に行われる火祭りで、櫓や楼門につけられた灯明台に火が灯されます。花火も打ちあげられ、人々の目を楽しませています。



ちごふりゅう 稚児風流

煌(きら)びやかな陣羽織を着た稚児(4~12歳)が風流を奉納します。「ドイキャンキャン」とも呼ばれ、約600年続いています。



2 山梶窩



幕末の勤王志士・眞木和泉守保臣(まきいずみのかみやすおみ)が藩政に口を出したため謹慎を命じられ、約10年間を過ごした家で「くちなしのや」ともいわれます。和泉守は若者たちを教育しながら日本各地の情報を集め、雌伏(しふく)のときを過ごしました。

3 溝口竈門神社



1014(長和3)年に筑前国より勧請(かんじょう)され、溝口地区の氏神様として祀られました。秋に行われる「千燈明祭」は、溝口城の天守閣の形に組まれた櫓(やぐら)の上で灯明に火を灯し、五穀豊穡と疫病退散を祈る伝統行事です。

キセル祭り

戦国時代、タバコ好きの溝口城主が合戦に敗れた際に、竹筒をキセル代わりにした古事に由来する珍しい祭りです。



4 熊野神社



1138(保延4)年に紀伊の熊野権現より勧請されました。参道の池にかかる石造りの「眼鏡橋」は、1697(元禄10)年に肥前国の石工によって造られた県下2番目に古いものです。

しゅじょうえ ついなさい 熊野神社 鬼の修正会(追儼祭)

毎年1月、さらしを巻いた締め込み姿の男衆が長さ約15mの大松明を曳(ひ)き、五穀豊穡と無病息災を祈ります。



5 久富熊野神社

ぼんつなひ 久富の盆綱曳き

全身にススを塗り、腰に藁蓑(わらみの)、頭に荒縄を着けて黒鬼に扮した子どもたちが大綱を曳きながらまちを練り歩きます。



魅力その2

観光

6 船小屋温泉郷

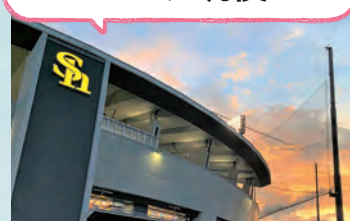


船小屋鉱泉場

難病に苦しむ老人が、雀地獄と呼ばれる船小屋温泉に身を沈めると病が回復したという由来を持つ船小屋温泉。日本有数の炭酸含有量を誇り、砂糖を入れたラムネになる、といわれるほど有名です。鉱泉場にはコップが置いてあり、無料で飲むことも汲んで持ち帰ることもできます。



7 HAWKS ベースボール パーク筑後



2016(平成28)年3月に福岡ソフトバンクホークスのファーム施設としてオープン。ナイター設備が整い最大3,113人収容のメイン球場では、選手の姿を間近に見ることができます。他にもサブグラウンド、ガラス張りの室内練習場などがあり、選手をいつも以上に身近に感じられるスポットです。

8 船小屋温泉大橋

矢部川に架かる筑後市のシンボルで、「赤橋」と呼ばれ親しまれています。2002(平成14)年、交通量の増加に伴い73年ぶりに架け替えられました。



川の駅 船小屋 恋ぼたる

県営筑後広域公園内にある物産館と温泉館。筑後七国を中心とした新鮮な海の幸・山の幸を販売しています。日帰り温泉やレストラン、無料で楽しめる足湯があり、イベントも多彩で週末などは多くの人々で賑わいます。



足湯も！

魅力その3

特産品

ブドウ

筑後市のブドウはハウス栽培を取り入れながら、ブドウの王様巨峰をはじめ、シャインマスカット、ピオーネなど多様な品種を4月から10月まで楽しめます。



梨



無袋栽培や後継者育成など地域で生産に取り組み、1987(昭和62)年に天皇杯を受賞した経歴を持つ筑後梨。幸水・豊水は芳醇でみずみずしい食感が特徴です。

焼酎



厳選された原料と製法にこだわった筑後の焼酎は、柔らかな口当たりが特徴です。食事に合わせて味わいを選ぶことで、料理の味をより一層引き立ててくれます。



9 県営筑後広域公園



福岡県内最大の県営公園で、広大な敷地に散策路やジョギングコース、ピクニックエリアなど多彩な施設が整備されています。家族連れやスポーツ愛好者にも人気が高く、バーベキュー施設や遊具広場もあり、地域の憩いの場として地元住民からも親しまれています。



フラワーゾーン

1月下旬からは約50本の梅が咲き、4月下旬からはナデシコ、キンギョソウ、ネモフィラ、ポピーなどが咲き乱れ、10月下旬からはソバの花が1万5千平方メートルの斜面をピンク色に染めます。

BMXパーク

ナイター照明を完備し、大会開催も可能な九州初の公式BMXパークです。2024(令和6)年に初・中級者ゾーンがオープンし、現在整備中の上級者ゾーンとあわせると幅広いレベルに対応できる施設になります。



10 九州芸文館

隈研吾氏設計による芸術文化の複合施設です。美術工芸品の展示をはじめ、講座やワークショップなど多彩なイベントを通じて地域の文化振興に貢献しています。



11 恋木神社

水田天満宮境内にある「恋命」を祀る全国でも珍しい神社です。「良縁成就の神様」「幸福の神様」として親しまれ、若い人達にも人気のスポットです。



八女茶

色・味・香りにすぐれ、全国的にも名高い八女茶。筑後市は主力産地の一つで、丘陵地一帯で栽培された八女茶(煎茶)は、毎年品評会で高評価を得ています。



久留米緋



久留米緋は筑後市の代表的な伝統工芸品の一つです。江戸時代、井上伝によって生み出された昔ながらの伝統を受け継ぎながら、新しい模様も開発されています。

はんでん

わたをたっぷり詰め込んだ「着る布団」とも呼ばれるはんでん。筑後織の特徴である「通気性の良さ」と「断熱効果」を活かして作られています。



魅力その4 産業

筑後市は交通の利便性を生かして早くから企業誘致に取り組み、工業のまちとしても発展を続けています。多くの企業が経済の活性化と雇用創出に貢献しています。

12 クロレラ工業株式会社



日射量や気温など理想的な環境条件が整った筑後市に日本最大級のクロレラ培養施設を構え、国内一貫生産を行っています。健康食品や一般食品のほか、農業や水産業など多岐にわたり展開しています。

13 九州カネライト株式会社



1997(平成9)年に九州・沖縄・中四国向けの生産拠点として創業し、断熱材カネライトフォームの製造を行っています。軽量で優れた断熱性能を持つカネライトフォームは、住宅の省エネを通じてCO2削減など環境保護に貢献しています。

14 ヤンマー建機株式会社



1914(大正3)年に創立し、油圧ショベルや発電機など高性能で信頼性の高い建設機械を製造・販売しています。革新的な技術から生まれた高い耐久性を持つ製品は、土木工事や農業など幅広い分野で活躍しています。

15 筑後染織協同組合



1970(昭和45)年に創業した九州で唯一の大型染色整理加工場です。糸染色・先染め織物の仕上げ加工・織物後染め加工に携わり、綿入はんてんに代表される筑後産地の織物の中核をなしています。

魅力その5

グルメ

新鮮な食材を活かした料理やスイーツ、おしゃれなカフェメニューなど筑後の魅力を味わえます！



筑後市のあゆみ

1954→2014

1954(昭和29)年4月1日、町村合併促進法に基づいて誕生した「筑後市」のあゆみを振り返り、主な出来事をご紹介します。



1957(昭和32)年当時の市庁舎

- | | | | |
|--|---|--|--|
| <p>1954 ●旧八女郡羽犬塚町、水田村、古川村、岡山村の一部が合併し、筑後市誕生</p> <p>1955 ●旧三潴郡西牟田町が合併、旧八女郡下広川村大字一条が分村合併</p> <p>1956 ●市庁舎新築竣工式開催</p> <p>1957 ●筑後市大字西牟田の一部が三潴町に分離</p> <p>1961 ●市内の電話が手動式から自動式へ変更</p> <p>1962 ●中央公民館開館</p> <p>1963 ●筑後市農協発足
●第1回市民体育大会開催</p> <p>1964 ●市文化連盟主催の第1回市民文化祭開催</p> <p>1965 ●国鉄羽犬塚駅舎改築</p> <p>1966 ●消防署庁舎完成</p> <p>1967 ●老人福祉センター開設
●第1回船小屋花火大会開催</p> <p>1969 ●筑後陸橋(ループ橋)開通
●「山梶窩」「熊野神社鬼の修正会(追儺祭)」が県文化財に指定</p> <p>1970 ●高江地区に「衛生センター」完成</p> | <p>1971 ●「久富観音堂盆綱曳き」が復活</p> <p>1972 ●筑後市第1期長期計画基本構想が市議会で可決</p> <p>1973 ●九州自動車道(鳥栖-南関間)が開通、八女IC開設</p> <p>1974 ●筑後中学校新設開校</p> <p>1976 ●水田コミュニティセンター完成</p> <p>1977 ●窓ヶ原公園完成</p> <p>1979 ●福岡県立筑後養護学校開校</p> <p>1980 ●市の木「クスノキ」、市の花「サザンカ」を選定
●川と水を守る運動を開始</p> <p>1981 ●勤労婦人センター「サンコア」完成
●郷土資料館開館</p> <p>1982 ●県道八女-大川線が国道442号に昇格</p> <p>1983 ●筑後北小学校新設開校</p> <p>1984 ●市民憲章制定</p> <p>1985 ●国鉄改革で矢部線廃止</p> <p>1986 ●野町に総合福祉センター完成</p> | <p>1987 ●筑後市農協梨部会が「天皇杯」受賞</p> <p>1989 ●筑後北中学校新設開校</p> <p>1991 ●社団法人筑後市シルバー人材センター設立
●台風17・19号が襲来、未曾有の被害発生
●井原堤水辺公園開園</p> <p>1993 ●紅葉ヶ丘公園、水田コミュニティセンター武道場オープン</p> <p>1994 ●住民基本台帳人口が4万5千人を突破
●ごみの分別収集開始</p> <p>1995 ●サザンクス筑後開館
●筑後市農協い業部会が「天皇杯」受賞</p> <p>2000 ●「八女西部クリーンセンター」「八女西部リサイクルプラザ」完成
●病児保育施設「ちっこハウス」完成</p> <p>2002 ●船小屋温泉大橋開通</p> <p>2003 ●市民の森テニスコート開設
●JR羽犬塚駅構内自由通路「さざんか広場」完成</p> <p>2005 ●県営筑後広域公園の一部が完成</p> | <p>2006 ●市民の森公園、二川みんなの公園完成
●矢部川浄化センター完成</p> <p>2007 ●「ちくごコミュニティ無線」開局</p> <p>2008 ●子育て支援拠点施設「おひさまハウス」開館
●農事組合法人「百世」が天皇杯受賞</p> <p>2009 ●船小屋鉾泉源公園完成</p> <p>2010 ●校区コミュニティ協議会始動</p> <p>2011 ●九州新幹線筑後船小屋駅開業
●筑後市立図書館開館</p> <p>2012 ●「川の駅船小屋恋ぼたる」グランドオープン</p> <p>2013 ●九州芸文館開館
●一般国道442号バイパス道路が全線開通
●福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地の誘致が決定</p> <p>2014 ●市制施行60周年記念式典を挙行</p> |
|--|---|--|--|



筑後陸橋(ループ橋)が開通



九州自動車道八女インターチェンジ開設



サザンクス筑後が開館



子育て支援拠点施設「おひさまハウス」が開館

筑後市のあゆみ

近10年

2015→2024

2015.03

市中央公民館が文部科学大臣表彰を受賞

2015.08

市内全小中学校の教室に空調設備が完備



2015.09

福岡ソフトバンクホークスファーム
本拠地の名称が決定

2015.11

市内全小学校区で
自主防災組織が
発足



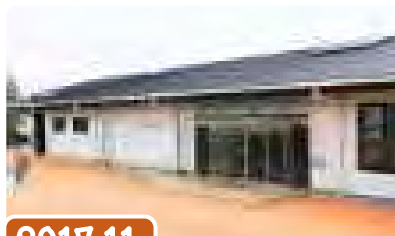
2017.03

市営住宅常用団地が完成



2017.07

九州北部豪雨で被災した
朝倉市などに復旧・復興支援



2017.11

市北部交流センター「チクロス」
拠点施設が開館

2017.12

第17代筑後市長(西田正治)が誕生



2019.03

県道柳川筑後線バイパス
全線開通



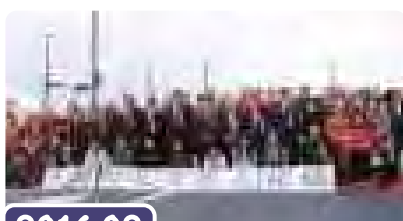
2019.05

「令和」の幕開けを記念日に
特別開庁を実施



2016.02

七国の魅力を発信!
筑後船小屋観光案内所が開業



2016.02

国道209号野町北交差点改良事業で
平面交差に

2016.04

筑後地域消防指令センターの本運用を開始

2018.04

図書館が文部科学大臣表彰を受賞



2018.05

山柵窩歴史交流館が
開館

2016.03

HAWKS
ベースボールパーク
筑後が開業



2021.02

ちくごで灯した五輪の聖火



2021

新型コロナの影響続く
さまざまなコロナ対策を実施



2021.11

筑後保育所の新園舎が完成

2023.03

再編新設小学校名「筑後南小学校」と
コミュニティ施設名「筑後南コミュニティセンター」が決定

2023.10

4年ぶりの
ちっご祭に
3万人が来場!



2023.10

ツール・ド・九州2023が
筑後市を通過



玉野市



益城町

2020.01・02

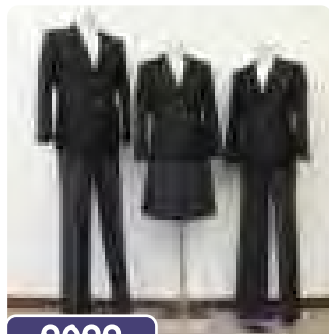
2自治体と災害時の
応援協定を締結

2020.02

小学校再編計画を決定

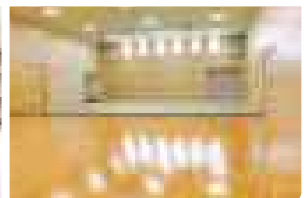
2020

「新型コロナウイルス」で
休校やイベントの
中止相次ぐ



2022

多様性に配慮した標準服を採用



2024.03

筑後南コミュニティセンター開館

2022.09

再編新設小学校の建設工事開始



今も続いている「児童下校見守り隊」の様子

地域と子どもを 繋ぐ架け橋に

地域活動
奨励表彰

はらぐち しょういち

原口 尚一さん

下妻校区コミュニティ協議会 初代会長

下妻校区コミュニティ協議会は2010(平成22)年に発足し、「児童下校見守り隊」をはじめ、合同運動会や防災訓練の実施、通学路の危険箇所にはガードレール設置の提言など、地域と子どもたちを繋ぐ幅広い活動をしています。

私は5年間初代会長を務めました。今回の受賞は発足当時の思いを受け継いだ歴代会長や支えてくださった各区長とともにいただいた賞だと感じています。

「児童下校見守り隊」には今も参加し、子どもたちと会話をすることで、私自身も元気をいただいています。筑後市は、人が温かくて結束力があるところが好きですね。

下妻小学校は134年の歴史に幕を閉じますが、ぜひおまつりやイベントに参加していただき、またみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

筑後市の未来を

筑後市のさらなる発展のために、市民のチカラは欠か
「地域活動奨励表彰」と「未来奨励表彰」を受賞した、“希望と

子どもたちに水泳の 楽しさを伝えたい

未来
奨励表彰

おか りこ

岡 莉子さん

中学生の頃より水泳競技で全国大会等に出場
鹿屋体育大学 水泳部

水泳の魅力はマグレがなく、1人1レーンの真剣勝負だから努力がそのまま結果に表れるところだと思っています。中学ではあと一步のところで決勝に残れず、その悔しさをバネに努力を続けた結果、高校では全国大会で3位になることができました。表彰台に立ち、みなさんの前でメダルをかけてもらった達成感は忘れられません。

その後は病気なども経験し何度も辞めたいと思いましたが、表彰台に立ったうれしさを思い出すことで、自分がなりたい姿を思い続けることができました。私は「上手いかない時こそチャンス」と考え、自分と向き合うことが大切だと思います。

将来は、保健体育の教員かスイミングスクールのインストラクターになって、大好きな水泳の楽しさを子どもたちに伝えたいですね。



祖父との川遊びを機に5歳から水泳を続ける



長岡さんが作った茅の輪を奉納する
6月1日の茅の輪くぐり

しめなわ 手作りの注連縄で 地域に貢献

地域活動
奨励表彰

ながおか
長岡 マス亘さん

尾島天満神社の注連縄と茅の輪(ちのわ)の制作者

こんなに立派な賞をいただいて、夢のようです。昨年亡くなった主人と約30年間一緒に作ってきたので、すぐに仏壇に報告しました。

神社の注連縄に使用する藁は、通常の苗ではなく、太くて長い藁用の苗を田植えと同じ時期に手で植えます。また、刈り取りは青みが残るよう早めに行い、しばらく干して機械で柔らかくした藁を準備します。

毎年11月に地域のみなさんとおしゃべりをしながら注連縄を作り、神社に奉納するのを楽しみにしています。できあがった時に大きな歓声と拍手が起こる瞬間は、何年経っても感動します。

最近では、後継者の育成にも力を入れています。私も元気な限り地域に貢献したいですね。6月1日のすがなわさんの茅の輪くぐりは、ぜひみなさん参加してくださいね。

支える市民のチカラ

せません。筑後市制施行70周年記念式典において
活力を与える活動に取り組む市民の声”をお届けします！

夢は、諦めずに 続けることが大事

未来
奨励表彰

ならはら よしき
檜原 慶輝さん

子どもたちに夢を与えるサッカー選手として活躍
J1リーグ・サガン鳥栖 MF

幼い頃から井原堤水辺公園で兄や父と一日中サッカーの練習をし、小学生の時にサガン鳥栖U-15のセレクションに合格しました。進級するたびにふるいにかける厳しい世界で挫折も経験しましたが、コーチや周囲の後押しもありプロの道にチャレンジしました。

よく、どうしたらサッカー選手になれますか？と聞かれますが、「近い目標を決めて諦めずに続けること」が大事だと思います。自分は1試合でも負けたら悔しくて、スタジアムでプレーするプロの選手を見て、自分も絶対にこうなりたい、という強い気持ちで練習に励みました。

地元に戻ると子どもたちから「写真を撮ってください」と言われ、初心に戻りますね。これからも、子どもたちに夢を与え、結果でサガン鳥栖と筑後市の皆さんに恩返しをしたいと思います。



2023年U-19日本代表にも選ばれた
檜原選手

未来に向けたまちづくり

70周年の記念すべき節目を迎え、子どもたちの夢や希望、笑顔を育み、
「住んでよかった、もっと住み続けたい」と思われる「ふるさと筑後市」を実現し、
さらに明るい未来につながる強固な土台を作り上げ、市政発展の礎とします。



mission 1

～ちくごで働く～

希望をかなえる 雇用の場を確保する

企業誘致や創業支援などにより雇用の拡大と事業所の経営安定化を図ることで、若い世代の雇用の場を確保し、女性や高齢者など誰もが能力を十分に発揮できる地域社会を実現します。



mission 2

～ちくごにひとを呼ぶ～

筑後市への 新しい人の流れをつくる

市の特徴である交通の便の良さや生活環境の良さなどを積極的にPRし、生産年齢人口の維持・増加に努めるとともに、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大に向けて取り組みます。



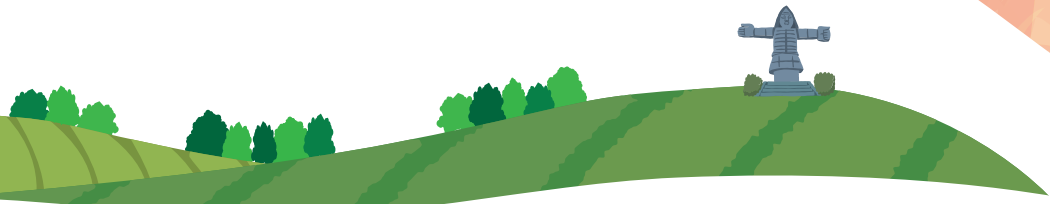
mission 3

～ちくごで育てる～

安心して子どもを産み、 育てられるまちをつくる

安心して出産できるよう母子保健の充実に努めるとともに、出産後も働き続けることができるよう子育て不安の軽減やワーク・ライフ・バランスの確保を含めた総合的な子育て支援に取り組みます。





mission 5

～ちくごで暮らす～

安全・安心で 活力のあるまちをつくる

各地で自然災害が頻発する中、消防団の充実強化などにより地域防災力の向上を図りつつ、共助の力を育み、住民同士が支え合うコミュニティの形成に取り組みます。

また、JR羽犬塚駅周辺地区において、住民・事業者・学識者・行政などの多様な人材が参画した「JR羽犬塚駅周辺地区エリアプラットフォーム」を設立。防災力を築きながら、筑後で暮らす人を大切にしたいまちづくりを目指します。



mission 4

～ちくごを愛する～

豊かな心を育み、筑後市に 愛着を持つ人材を育てる

子どもたちの「生きぬく力」を育むために、学校教育の充実を図るとともに地域の教育力を活かした青少年健全育成を推進します。

また、市民の郷土に対する愛着心を育み、歴史や伝統文化が次世代につながるよう、教育や生涯学習を通じた人材づくりを進めます。



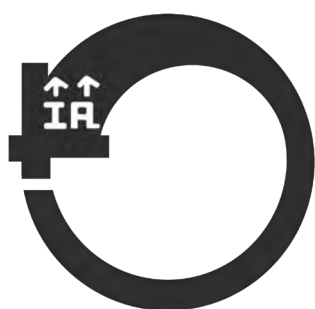
筑後市 概要

筑後市はこんなまち

筑後市は、筑後平野の中央に位置する田園都市です。博多からはJR鹿児島本線で約50分、九州新幹線で約24分、九州自動車道（八女インターチェンジ）を利用すると車で約1時間の距離にあります。古くから交通の要衝であり、薩摩街道（坊津街道）の宿場町として栄えるなど深い歴史を持ちます。温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、農業・商業・工業など自然と都市がバランスよく整備されています。これからも特色に磨きをかけ、筑後にしかない魅力を高めていきます。

市章

[1954(昭和29)年10月制定]



市制施行を記念して制定された市のシンボルマーク。外枠は筑後の「ち」を図案化したもので、周囲の円は円満を表し、市民の協調を象徴したものです。

市の木 クスノキ

[1980(昭和55)年1月23日制定]



市内各所に樹齢の長い古木があり、緑も多く、よく繁茂するため鳥なども集まる。樹高もあり樹姿も美しく、繁栄する市のシンボルとして、クスノキがふさわしいと決定。

市の花 サザンカ

[1980(昭和55)年1月23日制定]



花の期間が長く花も美しい、市の風土にも適しているとの理由からサザンカを指定。

データ

人口



49,181

世帯数



21,088

面積



41.78km²

※人口・世帯数／
2024(令和6)年3月末日
市民課:住民基本台帳より
※面積／
国土交通省国土地理院より

アクセス

交通／ ●近くの空港:福岡空港(車で約50分) ●九州佐賀国際空港(車で約45分)

鉄道／ JR九州 鹿児島本線 ●西牟田駅 ●羽犬塚駅(市役所の最寄駅) ●筑後船小屋駅
九州新幹線 ●筑後船小屋駅

バス／ 西鉄バス久留米 ●JR久留米駅・西鉄久留米駅～筑後市(船小屋行・筑後船小屋駅前行)
●西鉄八丁牟田駅～筑後市(羽犬塚駅前行)

堀川バス ●羽矢線(羽犬塚～矢部間)

市民憲章

[1984(昭和59)年10月1日制定]

この恵み多い自然、ゆかしい歴史と文化のうえに人の和を織りなして、住みよいふるさと、活気に満ちたまちを築きたいという願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 一、ゆたかな自然とうるわしい人情、調和のとれたまちをつくりましょう
- 一、伝統にまなび、教養をたかめ、清新な文化のまちをつくりましょう
- 一、ふれあいと安らぎを大切にし、思いやりにみちたまちをつくりましょう
- 一、健やかな心と身体をそだて、生きがいのあるまちをつくりましょう
- 一、仕事によるこびと誇りをもち、活気あふれるまちをつくりましょう

キャラクター



筑後市マスコットキャラクター
「チク号」

はね丸の祖先にあたる羽犬。はね丸家の家紋になっている。



筑後市PRキャラクター
「はね丸」

筑後市の羽犬伝説から誕生。背中の羽とキリリとした眉毛がチャームポイントのワンコ。運動神経はバツグンで、趣味はお掃除と温泉巡り。モテモテだけど、鈍感で恋愛には奥手な一面もある。



筑後市PRキャラクター
「パネコ」「ポネコ」

誰に頼まれたわけでもないのに、筑後市PRキャラクターを買って出た、伝説の羽犬を名乗る双子姉妹。恋に夢中なお年頃だが、彼女たちが筑後市を想う気持ちは誰にも負けていない。

発刊のごあいさつ



筑後市長
西田 正治

豊かな自然に恵まれ、ものづくりの伝統が息づく筑後市は、令和6年4月に市制施行70周年という大きな節目を迎えました。昭和29年4月、1町3村が合併し、「筑後市」が誕生しました。その後に編入や分離などを経て、今の市域となりました。

今日、筑後市がさまざまな課題を抱えながらも未来へ向かって発展を続けられるのは、先人の想いとたゆまぬ努力の賜物であり、これまでの歴史を紡いでこられた全ての皆さまに心から感謝と敬意を申し上げます。

今を生きる私たちは、その想いと努力のバトンを受け止め、次の世代に引き継ぐ責任があります。時代は令和になり、少子高齢化や人口減少、頻発・激甚化する災害など、多くの社会課題に直面していますが、市全体の活力を維持し、誰もが安全で安心して暮らすことができるまちづくりを確実に進展させます。

行政と議会、それに市民の皆さまがそれぞれの役割を果たしつつ、連携しながらより良い筑後市とともに築いてまいります。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



発行 2024(令和6)年10月

筑後市

編集 総務部 企画調整課

〒833-8601

福岡県筑後市大字山ノ井898番地

TEL/0942-53-4111 FAX/0942-52-5928

<https://www.city.chikugo.lg.jp/>